

全国市町村国際文化研修所「人口減少社会における議会の役割」研修報告

日時：令和5年10月12日（木）8:30～12:30

場所：全国市町村国際文化研修所（滋賀県）

参加議員：稲垣勇議員、片股敬昌議員

【報告】

報告者：片股敬昌議員

武庫川女子大学の金崎健太郎教授は人口減少社会における行政の現状と課題について話された。これからは地方公共団体相互間の連携、協力が必要。意見交換した鳥取県の町議会では具体的に近隣9つの市町村が共同でゴミの処分場をつくり、それにかかる費用を全体で負担し運用しているとの事。東京都でも医療ベッドが足りなくなってくれば、これからは千葉、埼玉、茨城などとの調整をし、補完関係でこれからの時代を乗りきって行くしかない。そのためこれからの職員に求められるのはそれぞれの自治体をつないでいくことが出来る能力を持った公務員。次に現職の寝屋川市広瀬市長の話があった。この講義は受講生にとって最もインパクトを与えた。寝屋川市はかつて道路が狭い、公園が少ない、住環境が悪いなど、とにかくあらゆる面でイメージが悪い街でもはや開発余地のない所であったが、今や多くの自治体が寝屋川市の視察に訪れるようになったという。広瀬市長の考えは次のようなものだ。苦手な所で勝負をしない。若い人たちにこの街を選んでもらう取り組み、子供たちの間でいじめのない、充実した教育を受けてもらう対策に真剣に取り組んだ。それが評価された。公共施設は一見無駄のように見えるがそうではない。それはメディアと同じで良い評価は勝手にどんどん拡散されて行く。開発余地がないと思われていた寝屋川市が4年でここまでやって来られた。持続可能な競争力を文化として残していくことが大切。リーダーによってここまで街は変われるものと学ばされた。

